

2013年度 環境マネジメントシステム

ー サービスイノベーション総合研究所 ー

●概要

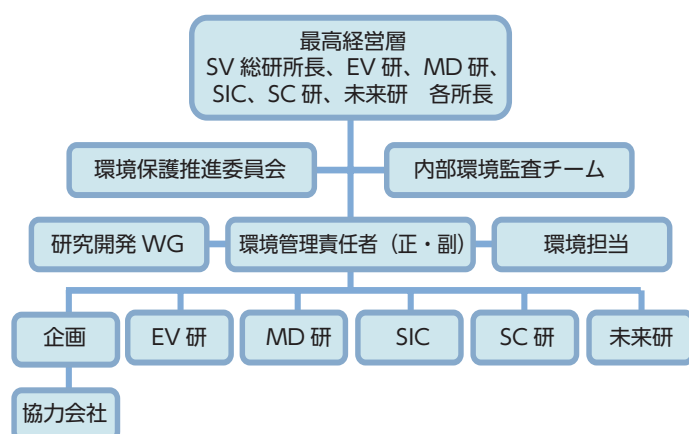
サービスイノベーション総合研究所および未来ねっと研究所は、EMSの国際規格であるISO14001を2001年10月に認証取得して以来、10年以上にわたり継続して運用しています。

電力使用量、PPC用紙使用量の削減や資源リサイクル率向上の取り組みは、ここで働くすべての人に浸透・定着しています。

●体制

サービスイノベーション総合研究所長、サービスエボリューション研究所長、メディアインテリジェンス研究所長、ソフトウェアイノベーションセンタ所長、セキュアプラットフォーム研究所長、未来ねっと研究所長を最高経営層とした管理体制で環境保護活動を行いました。

各組織の所属社員に加えて、その他の業務委託者、派遣社員などの要員も、EMS構成員として環境保護活動を推進しています。



EMS 体制

SV 総研 : サービスイノベーション総合研究所
 EV 研 : サービスエボリューション研究所
 MD 研 : メディアインテリジェンス研究所
 SIC : ソフトウェアイノベーションセンタ
 SC 研 : セキュアプラットフォーム研究所
 未来研 : 未来ねっと研究所（横須賀ロケ）
 協力会社 : NTT ファシリティーズ、NTT アドバンステクノロジー、
 日本メックス、テルウェル東日本、その他

環境方針

サービスイノベーション総合研究所および未来ねっと研究所は、先進的なメディア処理技術・情報処理技術・セキュリティ技術などを中核とし、社会・生活に変革を与える多種多様なICTサービスの創造に向けた研究開発を進めるにあたり、「NTTグループ地球環境憲章」に基づく「THE GREEN VISION 2020」に則り環境保護活動を展開します。

1. 環境に配慮した研究開発を推進します。
 (1) 豊かなコミュニケーション社会の形成に向け、環境保護に貢献する研究開発に取り組みます。
 (2) 新たに開発する環境負荷の低減をめざした各種基盤技術により、地球温暖化の抑制や環境貢献に結びつくICTサービスの創成をめざします。
 (3) 研究開発活動およびそれを支える事業所管理活動のあらゆる側面で環境保護に配慮し、エネルギーおよび資源の有効利用、廃棄物の適正管理と循環的な利用の推進とともに汚染の予防を図っていきます。
2. 環境関連の法規制およびその他の要求事項を順守します。
3. 定期的な内部環境監査と経営トップによる見直しなどにより、環境マネジメントシステムの継続的改善に取り組みます。
4. 地域社会に向けて環境保護の取り組みを情報公開するとともに、インターネットにより情報発信します。
5. 常駐するNTTグループ企業、協力会社などと共同して環境保護に取り組みます。

2012年7月1日

2013年度 環境マネジメントシステム

●目標と実績

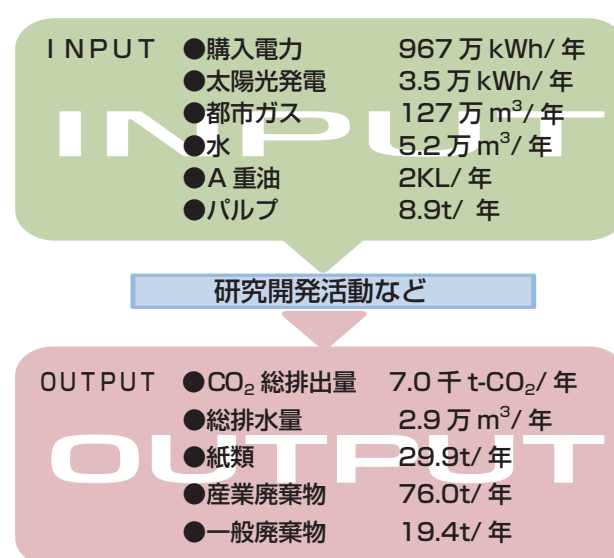
サービスイノベーション総合研究所および未来ねっと研究所では、環境目標の達成に向けて、さまざまな活動に取り組んでいます。

2013年度の環境目標として、以下の表にある事項を策定し、目標達成に向けて取り組みを行いました。これらの環境目標のうち、「横須賀研究開発センタ可燃物量：2012年度水準(実績)を維持」が未達成となりました。

今後も統合したEMSのもとで、継続した活動を行い、環境負荷低減に貢献していきます。

その一方で、研究活動や横須賀研究開発センタの運営・維持に伴う廃棄物や排水、二酸化炭素(CO₂)などを排出しています。

2013年度に横須賀研究開発センタが使用(INPUT)したエネルギーや資源の量と、排出(OUTPUT)した物質について、以下にまとめています。



●環境負荷の全体像

サービスイノベーション総合研究所では、横須賀研究開発センタでの環境負荷を把握し、使用量の削減、負荷の低減に努めています。

横須賀研究開発センタでは、電力等のエネルギーや水といった資源を使用することで、最先端の研究活動を行い、社会に役立つ新しい通信技術やサービスを生み出しています。

2013年度の目標と実績

項目	目標	実績	評価
環境に貢献する研究開発	研究開発成果アセスメントの実施	研究開発成果グリーンアセスメントの100%実施	○
		研究開発成果の環境貢献度評価を実施(1件)	○
	環境に貢献する装置・システムの研究開発	A/V通信相互接続技術の利用による、環境負荷の低減など5項目の実施	○
環境保護取り組みの情報公開推進	環境保護取り組みの情報公開推進	横須賀研究開発センタ環境レポート2013年度版の作成とセンタ公式Webサイトでの公開	○
電力使用量の削減	電力の有効利用と不要電力の削減	横須賀研究開発センタ電力使用量を2012年度実績より2%削減	○
	実験室系大電力装置の運用管理		
PPC用紙使用量の削減	横須賀研究開発センタ電力使用量：2012年度水準(実績)を維持	PPC用紙使用量を2012年度実績より22%削減	○
	PPC用紙削減活動と施策の周知		
廃棄物の適正管理	廃棄物の分別・リサイクルの徹底	小型家電リサイクル法の動向をウォッチングし、適正処理に向けた検討を進めた	○
	横須賀研究開発センタ可燃物量：2012年度水準(実績)を維持	横須賀研究開発センタ可燃物量：2012年度水準(実績)比4.7%増加	×
環境汚染物質の適正管理	環境汚染物質の適正管理	重油の漏出無し	○
		ハロンの漏出無し	○
地域貢献活動	地域社会への貢献	1年間で清掃活動を6回実施	○
生物多様性の保全	生物多様性の保全と持続可能な利用に係る認識の向上	横須賀研究開発センタ周辺の生き物観測を実施	○

2013年度 環境マネジメントシステム

●環境教育

環境活動に対する意識向上と、環境活動目標の周知、環境活動の実施に必要な力量を身につけるため、毎年、社員等の環境教育を実施しています。

全構成員を対象とした「一般環境教育」の他、著しい環境側面に関連する業務を行っている構成員を対象とした「環境影響業務従事者教育」など各種教育を行っています。



一般教育の資料

●内部環境監査

毎年、内部環境監査を実施し、EMSが確実に運用できているかを確認します。

2013年度の内部監査は、6月11日～12日の2日間で行いました。監査結果は、不適合0件、コメント4件、奨励事項22件でした。4件のコメントについては、すべて是正実施済みです。

●環境に貢献する研究開発

◆研究開発成果グリーンアセスメント

「研究開発成果グリーンアセスメント詳細ガイドライン」に基づいて、研究の初期段階と、完了時に2回のアセスメントを実施し、環境負荷低減の取り組みを推進しています。

各研究開発テーマに対して「研究開発成果グリーンアセスメント」を実施し、研究開発成果が実際のお客様によって使用された時に期待される環境貢献面（物の消費、電力消費、エネルギー消費等）を評価しています。

◆環境貢献度評価

研究開発成果がどれだけ環境に貢献できるかを明らかにするために、ライフサイクルアセスメント(LCA)の手法を用いた環境貢献度評価を実施しています。

2013年度は、「多言語統計翻訳システム」の環境貢献度を評価※しました。

※ 評価の詳細については、P.8に掲載。

●情報公開

環境に関する取り組みについて、さまざまな情報を、ホームページを通じて公開しています。

公開ホームページ

●サービスイノベーション総合研究所

<http://www.ntt.co.jp/svlab/index.html>

●環境レポート

http://www.ntt.co.jp/RD/environment/sv_report.html

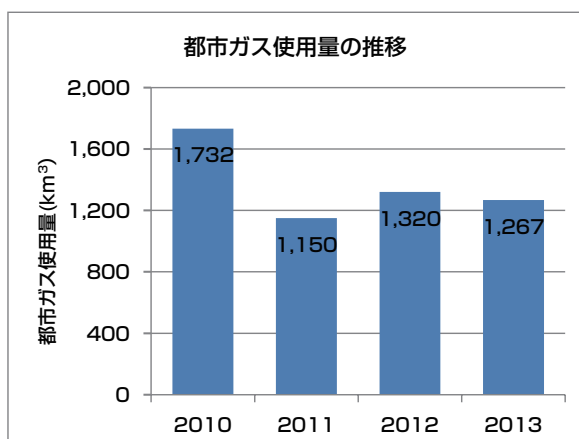
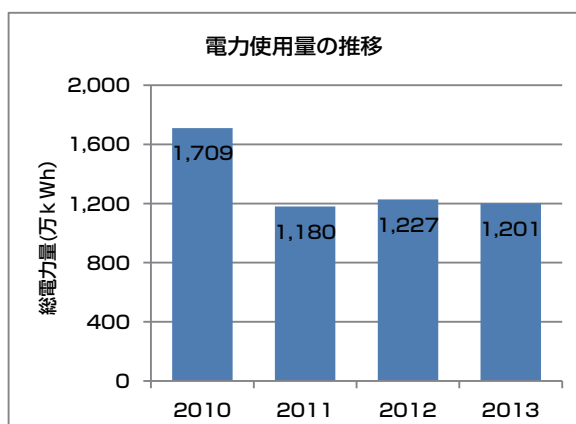
2013年度 環境マネジメントシステム

●省エネルギー活動

実験装置類や共通設備の電力使用の適正管理の他、個別空調温度の適正管理や照明の区間点灯など、さまざまな省エネルギー施策を研究所全体で取り組んでいます。

施策の1つである「電気使用量見える化」の取り組みでは、フロアごとの毎日／時間毎電力使用量をEMSのホームページに掲載し、所員の節電意識向上に貢献しています。また、横須賀研究開発センタでは電力会社から購入する電力の他に、太陽光発電システムや、コジェネレーションシステムによって自家発電した電力を使用しています。

横須賀研究開発センタにおける、2013年度の電力の総使用量は、1,201万kWh(対前年度比2.1%減)となり、目標達成することができました。

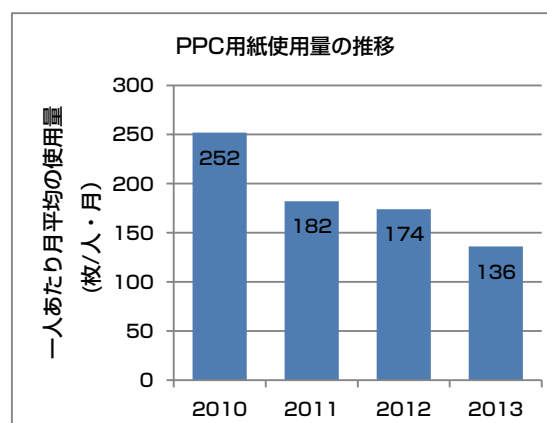


●省資源活動

省資源への取り組みとして、PPC用紙の使用量削減を研究所全体で推進しています。

会議・打ち合わせのペーパーレス化推進、および両面印刷や縮小印刷の実施によるPPC用紙の使用量削減に継続して取り組んでいます。その他、一般環境教育での具体的な取り組み方法の解説や、EMSニュース等でPPC用紙の使用量を毎月公開することにより取り組み状況が実感できるようにするなど、啓発活動も併せて行っています。

横須賀研究開発センタにおける、2013年度の1人あたり月平均のPPC使用量は、前年度比22%減の136枚となり、目標を達成することができました。



●生物多様性の保全

構成員が生物多様性に関する理解を深め、積極的に取り組みを進めるための情報を定期的に配信しています。

横須賀研究開発センタ内の生き物の観察・調査を行い、構成員向けに毎月発行しているEMSニュースに、調査結果を掲載しています。



横須賀研究開発センタ敷地内で観察された野鳥

2013年度 環境マネジメントシステム

●廃棄物の適正管理活動

◆廃棄物の分別・リサイクルの徹底

横須賀研究開発センタ内の各所に分別BOXを設置しています。紙類の他、プラスチック類、生ごみ、什器、発泡スチロールや乾電池、空きビン、空き缶などの分別回収を行い、センタ全体で資源リサイクルを推進しています。



分別 BOX

◆「資源回収紙類」BOXの設置

PPC用紙や段ボール、新聞紙などの専用の分別BOXの他に、可燃物BOXにゴミとして入れられているリサイクル可能な紙資源の分別回収を徹底するため、封筒、チラシ類、紙ファイル等を入れる資源回収紙類BOXを設置しています。

◆廃棄物の適正管理

廃棄物は廃棄物処理業者へ処分を委託しています。定期的に産業廃棄物処理業者の現地調査を行い、廃棄物の処理状況を確認しています。

◆社員教育と啓発活動

環境保護活動の一環として、廃棄物処理を取り巻く状況や廃棄物の分別ルールについての教育を行っています。

また、社員の廃棄物への意識向上を啓発するため、最終廃棄物量やリサイクル率について所内ホームページで公開しています。

●環境汚染防止活動

◆ポリ塩化ビフェニル(PCB)

有害物質であるPCBを含有する機器は、横須賀研究開発センタ地下に専用のPCB保管室を設け、保管容器に封入して管理しています。毎年1回、保管しているPCBの数や状態を確認し、神奈川県に結果を報告しています。

◆地下重油タンク

横須賀研究開発センタでは、緊急時の発電用として地下に設置した貯油タンクにA重油を保管しています。給油時の油漏れに備え、作業手順と緊急時の対応手順を作成し、作業者教育の実施により環境汚染防止に努めています。地下貯油タンクは、法定点検、定期点検により異常が無いことを定期的に確認しています。



緊急事態対応訓練の様子

◆ハロン消火設備

横須賀研究開発センタでは、コンピューターや特殊な測定装置など、電気・電子機器を多く使っているため、水ではなく、ハロンガスを用いた消火設備を使用している実験室があります。ハロンガスは、地球温暖化やオゾン層を破壊する性質があるため、ハロンガスの誤放出や漏えいがないよう、定期的に設備点検を実施しています。

また、故障などによる誤放出を想定した緊急事態対応手順を定め、毎年対応訓練を実施し、万一の事故に備えています。

適正かつ厳重な取り組みにより、2013年度も問題の発生はありませんでした。

今後も、より一層の安全・信頼の向上に努めます。

2013年度 環境マネジメントシステム

●地域とのコミュニケーション

◆清掃活動

横須賀研究開発センタの社員が通勤時に使用する京浜急行YRP野比駅周辺と、横須賀研究開発センタ建物周辺道路を定期的に清掃しています。

2013年度の参加者は、社員等のほか、近隣の養護学校の生徒さん、教職員の参加もあり延べ420名となりました。本活動は6年以上継続して実施しています。



清掃活動の様子

●職場環境づくり

◆総合防災訓練

毎年秋に震災と火災を想定した、総合防災訓練を実施しています。

訓練では、消防署立会いのもと、避難訓練に続き、実際に消火器や消火栓を使用した消火訓練などを行う他、地震車によるゆれ体験、煙の中を避難する訓練など震災・火災などの緊急時に備えています。



消火訓練の様子

◆作業所販売会

近隣の作業所で障がいを持つ仲間たちが製作した作品等の販売会を隔月で開催しています。アクセサリ等の他、青果、菓子などはいつも大変好評です。

◆一般公開

7月20日に行った一般公開では、横須賀研究開発センタの施設や最新の研究成果を体験していただくことで、NTTの研究開発の取り組みに対する理解を深めていただきました。

◆ふれあいコンサートの開催

9月28日に近隣の障がい者施設において、22回目の「ふれあいコンサート」を開催し、横須賀研究開発センタの軽音楽部、合唱団などが参加し発表しました。

◆安全点検

職場の安全確保のため、安全点検を毎月行っています。居室・実験室の巡回を行い、耐震固定、避難通路確保などの確認を行っています。

◆救急救命講習会

定期的に救急救命講習会を行っています。実際に応急処置、AEDの使用方法体験なども行い、緊急時に対し多くの社員が対応できるよう備えています。



救急救命講習会の様子